SEプラス6月成果発表会　読み上げ原稿

チーム源田

みなさんこんにちは。ただいまより、チーム源田による6月成果発表会を行います。

本日はこのような機会を設けていただき、また、多くの企業担当者様に足を運んでいただき、感謝申し上げます。お昼ご飯の前ということで皆様お疲れかと存じますが、お付き合いいただけますと幸いです。

今回の発表の目次といたしましては、御覧の通りです。

初めに、**「テーマとペルソナ」**についてです。発表する内容に課されたテーマとそれをこなすためのペルソナについてお話しします。次に**「プロジェクトの概要」**です。定義したペルソナに対して私たちができることは何かを考えた結果をお話しします。そのあと、メインコンテンツとして**「機能の紹介」**を行います。実際にページを動かしながら、工夫した点や苦労した点についてお話しできたらと考えています。では早速進めていきましょう。

まずは「テーマとペルソナ」について、上野さんから話していただこうと思います。

はい、チーム源田の**上野**です。よろしくお願いします。

今回課せられたプロジェクトテーマは**「日々、会社で仕事をしている社会人が、ほぼ毎日利用することで、幸せになる、便利になるWebアプリ」**でした。これに対して私たちは、アプリを使用する対象としてペルソナを考えました。

(スライドが変わったら)彼の名前は源田くんです。気弱な性格の新人・源田くんの悩みは、「質問をすると怒られてしまうのではないかと思ってしまうこと」でした。お聞きのみなさんの中にも、自分の疑問のレベルがわからず、質問することを躊躇ってしまう、という方がいらっしゃるのではないでしょうか。

このようなペルソナを設定したうえで、ここからは、「プロジェクトの概要」についてお話しします。「質問したいけど…」と躊躇ってしまうという悩みは誰しもが感じうるものでありながら、解決できれば新人の学習意欲向上につながるものでもあります。では、恐れずに質問するためにはどのようにすればよいでしょうか。必要なのは「匿名性」です。誰が質問したのかわからない状態であれば、質問者は遠慮なく質問を行うことができます。ただこれだけでは、質問者しか使用することがありません。そこで、ユーザの幅を会社全体へと広げるために、匿名性を生かした「掲示板」として拡張しました。

こちらは、今回制作したサイトのロゴになります。質問や催し事の募集、簡単な相談ができる場所を「中庭」に例え、「質問しやすいみんなの中庭」として開発を行いました。「中庭掲示板」は、質問したい新人のためのアプリとして、さらには会社内の匿名コミュニケーションツールとして機能します。

ここからは、実際にアプリを見ながら説明を行っていきます。古川さん、お願いします。

はい、ここからはチーム源田の**古川**が、ログイン前の機能についてご案内いたします。

みなさま、chromeの画面は見えておりますでしょうか。見えていない場合はリアクションボタンでお知らせください。(ちょっと間を置いて)問題ないようですので、進めます。ページを進めながら、各ページで特に工夫した点、技術的に難関だった点もお話できればと思います。

ログイン画面はご覧のようなデザインになっています。左側にはロゴと、簡単なアプリの紹介があり、右側には入力欄があります。ログインする前の画面はすべてこのレイアウトに統一されています。最初に表示される画面は、ログインと新規登録を行うことができますが、これらはタブによって切り替えられるようになっています。

私たちも含め、皆様がいろんなサイトで行っているこのログインや新規登録ですが、作ってみると、セキュリティを担保するためには様々な機能が必要であることを実感しました。

まずユーザ情報ですが、これらの情報を登録する形にしました。上から氏名、任意のID、任意のPW、社員番号、秘密の質問とその回答の6つです。データベース上の主キーはIDです。

適切な情報が入力された場合、このような確認画面が表示され、登録ボタンを押すと次回以降この情報でログインを行うことができます。

しかし、ログインや新規登録のための情報の入力には、さまざまはイレギュラーが想定されます。まず、新規登録時の入力情報が不足していた場合。これはそれぞれの入力欄を必須項目とすることで解決しました。入力がない状態で登録しようとするとこのようなエラーが表示され、フォームの送信が中断されます。次に、入力されようとした社員番号、ID、あるいはその両方が既に使用されているものであった場合。これは、それぞれ場合分けを行い、エラー画面に推移することで解決しました。その際、そのままログイン画面に戻ると、修正が必要な要素以外は直前に入力した内容を保持しているようになっています。PWとそれを再度入力したものが一致しなかった場合も同様です。新規登録に関するエラー分岐は以上です。

続いて、ログイン時のイレギュラーです。皆様も経験があることでしょう。IDやPWを忘れてしまったときの機能を備えています。IDを忘れた場合は社員番号を、PW  
を忘れた場合はIDを入力し、あっていれば新規登録時の設定した秘密の質問が表示されるようになっています。これに正しく回答した場合、IDを忘れた人には自分のIDを表示する画面が、PWを忘れた人には新しくPWを設定する画面が表示されます。ここでも、入力されたIDや社員番号が正しくない場合、存在しない場合、秘密の質問への回答が誤っていた場合はエラー画面に遷移するようになっています。

さて、ちゃんと過不足なく新規登録した人や、IDとPWをちゃんと覚えていた人は、これらのエラー画面を見ることなくHOME画面に移動することができます。ここからは、石戸くん、目崎さん、小神野くんにバトンタッチして、ログイン後の機能についてお話していきます。よろしくお願いします。

はい、チーム源田の**石戸**です。私はHOME画面機能についてご案内いたします。

今見えている画面が、ログインすると最初に表示されるＨＯＭＥ画面です。すべての画面にはこのようにヘッダーと、フッターが設置されています。このページ以外でヘッダーロゴをクリックするとHOMEページに戻ってこられるようになっています。また、ログイン後すべての画面にログアウトを行うアイコンも用意してあります。設定アイコンについては後述します。

デザイン面のコンセプトとして、ロゴにもあるように、今回のデザインのコンセプトは「青い花が咲く中庭」としました。全体を通して青を基調として制作し、ところどころに花が咲いているようなデザインになっています。青色には気持ちを落ち着かせたり、集中力をあげたりする心理効果があるとされ、仕事中に見るツールとしての配慮も行っています。落ち着いた中庭が、風通しのいいコミュニケーションを行う場になればいいなと思い、制作しました。

　さて、HOME画面には、主に二つのコンテンツがあります。目を引く第一コンテンツには、新着のタイトルが5つ並ぶようになっています。デフォルトではすべての掲示板のデータを時系列順に並べて新しい順に5つ並ぶようになっています。詳細をクリックすると、そのタイトルに準じた投稿内容を確認することができます。

新着情報の下には「質問」「趣味」「相談」の３つに分けられたカテゴリ別の掲示板が並んでいます。「質問」カテゴリは、このアプリを制作するきっかけとなった「質問しやすい環境」のためのものです。「趣味」カテゴリは、例えば趣味を投稿して同じ趣味を持つ人を探したり、勤務時間外の催しに対する募集を行ったりすることを想定しています。「相談」カテゴリでは、健康やキャリアなどに対する相談を気軽に投稿できる空間として用意されています。当初はユーザが自由にカテゴリを追加できるような機能を想定していましたが、時間的な問題で今回は3つに限定するという選択を取りました。では、メインの掲示板機能について、目崎さんに交代します。

はい、チーム源田の**目崎**です。私はこの掲示板のメイン機能である掲示板機能についてお話していきます。

HOME画面からカテゴリを選択すると、掲示板に投稿された内容をタイトルで一覧できるページに推移します。ヘッダーには各カテゴリ名が表示されています。このページは、フリーワード検索、新規投稿、既存の投稿を確認するという3つの機能を持っています。フリーワード検索では、入力したワードが本文に含まれる投稿を探すことができます。

メインとなる新規投稿は、このボタンからポップアップで表示されるフォームによって行うことができます。タイトル、本文、ハッシュタグを記入する欄、そして匿名で投稿するかどうかを選ぶスイッチがあります。ここで匿名を選択した場合、この投稿の投稿者はランダムに割り振られた動物の名前で表示されることになります。内容を記載し投稿を行うと、各カテゴリの掲示板の一番上に表示されます。クリックしてみましょう。

ここから投稿を確認した場合、だれでもその投稿に返信を行うことができます。返信にも同様に匿名を選択する機能があり、匿名で対等に話すことができるようになっています。匿名とはいえ、同じ人間から返信が来たことは分からなければいけないので、複数の返信があり、その中で同じ返信者からの返信があった場合、表示される動物名は同じになるようになっています。

行われた返信はリプライツリーに追加されていきます。ヘッダーにあった設定アイコンをクリックした先では、この新着情報に表示する内容のカスタマイズを行うことができます。ラジオボタンで設定したいこの設定画面ではPWの変更も行うことができます。HOMEに戻ります。

一般ユーザが通常使用する機能は以上です。これらの機能は、質問しやすい職場をつくったり、社内コミュニケーションの発展を手助けしたり、さまざまな可能性を持っています。

さて、匿名という機能はこのように便利なものですが、特有の危険も持っています。それは「匿名による不適切な言動」です。この危険からユーザを守る仕組みについては、小神野くん交代して話していただきます。

はい、チーム源田の**小神野**です。私がお話しするのは、健全なユーザを守るために実装した機能についてです。

このアプリの個性である「匿名機能」が社内いじめのきっかけになるようではいけません。この危険性を抑制するのが「通報機能」と「管理者モード」です。

ご覧のように、投稿やそれに対する返信には、その内容に対して通報を行うボタンが用意されています。では、通報ボタンから通報が行われた内容はどのように確認するのでしょうか。そこで用いられるのが「管理者モード」です。ユーザ情報の中には管理者か一般かを区別するステータスが格納されています。一度ログアウトして、管理者ステータスを持ったユーザでログインしなおしてみましょう。こちらが一般ユーザのログイン画面ですが、比較すると「Mode:」が管理者になり、先ほどはなかったReport、通報というアイコンがあることがわかります。このアイコンは管理者ステータスを持っている人にしか見えないようになっており、クリックすると、通報された投稿や返信を一覧で見ることができます、タイトル横の「詳細」ボタンをクリックすると、その投稿の何に対して通報が行われたのかも確認することができます。そして、そのアイコンをクリックすると通報が行われた内容の投稿者の匿名をはがし、実名とＩＤを知ることができます。この機能があることで、匿名だからといって何を言ってもいいわけではないというルールを作ることができました。この機能によって、ユーザは安心して匿名でのやり取りを楽しむことができます。

管理者モードでは、設定画面にも変化があります。一般モードと比較すると、お気に入りワードとPWの再設定機能に加え、指定したIDから管理者権限を付与・剥奪する機能、指定した社員番号を変更する機能が追加されています。社員の変動や複数管理者が必要な場合に備えた機能です。このアプリを納品する際、管理者権限を持ったアカウントとともに納品することで、そこから管理者権限を持つアカウントを増やしていくという流れになります。以上で全機能の紹介を終わります。

ありがとうございました。お聞きの皆様もお疲れ様でした。このアプリを使えば、源田くんも気軽に質問できるようになり、わからないところが減って自信を持てるようになるでしょう。最後に、計画では実装したかったけれども未実装のままである点と、プロジェクトを踏まえて得た学びをお話して終わりにしたいと思います。こちらのリストですが、上半分は時間が足りなかったもの、下半分は技術が足りなかったものです。今日でこのプロジェクトは終了になりますが、今回の研修で得た技術を今後使うことがあった際はもちろん、新しい技術を習得したときに「この技術を使えばあの時実装できた機能があったかもしれない」と思い出すことができれば、研修の意味はそれだけ深まると思います。最初から最後まで通してやってみる、という経験は、いろいろな形で学びになっていると思います。

駆け足ではありましたが、これでチーム源田の発表を終わります。一緒に頑張ってくれたチームメンバーやDクラスの皆様、このような機会を与えてくださった各企業様、seプラススタッフの方々、講師の方々にお礼申し上げます。ご清聴いただきありがとうございました。